

ITU-T SG3 議長 (WTSA-16 選出 (再任)) 津川 清一氏 (KDDI) に聞く

【読者のための豆知識】

SG3 (第3研究委員会)の活動内容：
料金及び会計原則と
国際電気通信・ICTの経済と政策課題

専門領域：通信の政策、料金

略歴： 1973年 中央大学法学部 卒
同年 国際電信電話株 (現 KDDI) 入社
1982, 1989年 ITU 全権委員会議参加
2001年 ITU-T SG3 参加
2002年 ITU-T SG3 ラポータ就任
2004年 ITU-T SG3 副議長就任
2012年 ITU-T SG3 議長就任 (現在に至る)



— 先の WTSA-16 での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、議長に任命されたことについて率直なお気持ちは？

(津川) SG3 は伝統的に、計算料金のレベルとか精算の仕組みを考える実務的な SG でした。しかし、所掌範囲が通信の経済的側面とか規制の在り方に広がったため、仕事が多岐に亘ることになりました。今回の WTSA でも、なにかあると SG3 の関与が求められるようになりました。副議長の数も前研究会期の 8 名から 13 名に増えました。このように環境が大きく変わった中で議長を務めることはとても大変ですが、なんとか無事に任期を全うできればと考えています。

— ご担当事項とご経歴、ITU との係わり、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

(津川) ITU 自体とのかかわりはとても長く、1982 年のナイロビ全権委員会議参加から始まっています。SG3 との付き合いは、2001 年からです。

— これから議長として重責を担われるわけですが、次研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事とお考えですか？

(津川) 通信の経済的側面とか規制の在り方に関する幅広い問題が提起されると思います。それはそれとして、SG3 が本来担ってきた料金に関する日常業務の改善も忘れないようにしたいと考えています。

— 議長としての抱負をお聞かせください。また、どのような点に力点を置いて活動される予定ですか？

(津川) 色々な地域の間、利害対立が目立ってきましたので、皆が満足できる結論を導き出せるよう議長として汗をかきたいと思っています。非常に難しいことは理解しています。

— 議長としての難しさや壁 (障壁)、そうしたことへの対処方法はどうお考えですか？

(津川) 各国の間を走り回って意見調整をするしかないと思っています。

— わが国、各加盟国の政府関係や ICT 産業界からの理解や協力が大変重要で必要なものだと思いますが、これについての期待をお聞かせください。

(津川) 総務省様を始めとする国内通信事業者からのご支援に感謝しています。私は日本人の SG3 議長として 3 人目ですが、日本は先進国と発展途上国の間に立って利害を調整することに最も適した国だと思います。この役割を私の後にもつないでいくよう努力したいと思っています。

— 個人的な信条とか、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

(津川) SG3 が行っている活動は他の国際機関にはありません。このユニークな役割を生かし、口幅ったいですが人類全体に貢献したいと考えています。

— このインタビューにお時間を割いていただき有難うございました。これからの一層のご活躍をお祈りしております。読者の方へのメッセージがあればお聞かせください。

(津川) SG3 では地域間のせめぎ合いが顕著になってきましたが、これは ITU-T 全体の縮図であり、将来の方向性を表す指標のようなものです。SG3 の動きをフォローしていただければ、これらが予想できますので、どうかご活用ください。